

3

5歳から11歳のお子様も、
3回目接種が受けられるようになりました。

Q. なぜ追加接種（3回目接種）が必要なのでしょう？

- A. 子どもの感染者数の増加とともに、重症者数も増加傾向にあります。初回接種（1・2回目接種）後、時間経過とともに発症予防効果が低下しますが、追加接種（3回目接種）を行うことにより効果が回復すると報告されています。ぜひ、お子様と一緒に3回目接種をご検討ください。

接種の対象と使用するワクチン

- 2回目接種を完了した5～11歳のお子様を対象です。
- 2回目接種を完了し、5か月以上、間隔を空けて接種します。ファイザー社の5～11歳用のワクチンを使用します（※）。（※）ファイザー社の12歳以上のものに比べ、有効成分が1/3になっています。

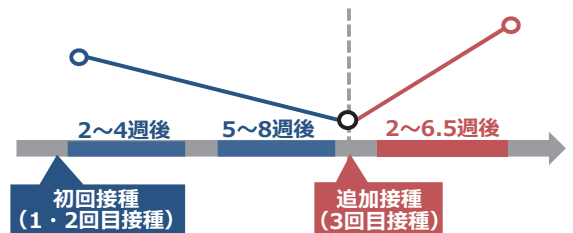


新型コロナワクチンの効果

Q. 3回目接種をすることで、どんな効果がありますか？

- A. 新型コロナワクチンを受けることで、新型コロナに感染しても症状が出にくくなります。5～11歳の子どもに対するワクチンの3回目接種後は、オミクロン株を含む新型コロナウイルスに対する中和抗体価（※）が上昇します。また、近い年齢の子どもにおいて、時間経過とともに低下した初回接種による発症予防効果が、3回目接種により回復すると報告されています。

発症予防効果（イメージ）



（※）ウイルスの感染力や毒素の活性を中和できる抗体の値のこと

出典：特例承認に係る報告書

Fleming-Dutra KE, Britton A, Shang N, et al. Association of Prior BNT162b2 COVID-19 Vaccination With Symptomatic SARS-CoV-2 Infection in Children and Adolescents During Omicron Predominance. JAMA. 2022;327(22):2210-2219. (12～15歳のデータより作成)

新型コロナワクチンの安全性

Q. 3回目接種を受けた後は、2回目接種の後と比べてどんな症状が出ますか？

- A. 5～11歳の子どもに対する3回目の接種後7日以内の副反応は、2回目接種の後と比べると、おおむね同様の症状が見られ、2回目接種時を上回るリスクは報告されていません。

■ 5～11歳の接種後7日間に現れた症状発現率の比較（ファイザー社ワクチンを使用）

報告割合	接種後の症状（2回目接種後→3回目接種後の症状の発現率）		
50%以上	疼痛（72.2→73.9%）		
10～50%	疲労（46.6→45.6%）	頭痛（30.1→34.0%）	筋肉痛（12.5→18.3%）
	発赤（16.5→15.6%）	腫脹（14.0→16.4%）	悪寒（10.3→10.5%）
1～10%	発熱（8.8→6.7%）	関節痛（5.5→6.7%）	下痢（6.5→4.9%）
	嘔吐（1.8→2.4%）		

出典：特例承認に係る報告書



5～11歳用のワクチンがオミクロン株流行下でも有効であるとの最新情報を踏まえ、5歳から11歳のお子様にワクチンを受けていただけるよう、ご本人とその保護者の方に努めていただくことになりました。これは、国民の皆さまに接種にご協力いただきたいという趣旨によるものであり、接種を強制するものではありません。

←詳しくは厚生労働省ホームページQ&Aをご覧ください。

